

## Ashiya PEACEプロジェクトについて

### 1 趣旨

Ashiya PEACE プロジェクトとは、「ちょうどの学び（一人ひとりの個性や特性、興味関心、理解度等を踏まえた公正で最適な学び）」を実現するため市立学校園の実情に応じて取り組むべき手段・方法について本市オリジナルで検討し、実践するプロジェクトです。

約150年前から続く、「みんなで同じことを同じペースで一律に」といった教育が段々と難しくなってくる中、学校も多様な個性、背景、願いをもった子どもたちが学び合う場となってきました。一人ひとりの個性が認められ、響き合い、共に新たな価値を創造する教育への転換が求められています。

何よりどの子にとっても、学校が安心して過ごせる場所でありたいと考えています。

個々の“今の自分”というものをそのまま認め、子どもたちの内にある四つの本能的欲求（「知りたい欲求」「作りたい欲求」「コミュニケーションしたい欲求」「表現したい欲求」）を大事にしながらか、「対話」を通じた最適な支援を心がけていながら、「未来」に生きる子どもたちにとって、それぞれの Well-being を目指して推進します。

### 2 添付資料

- ・ Ashiya PEACEプロジェクト（概要）  
別添資料（1）のとおり
- ・ Ashiya PEACEプロジェクト R6年度実施予定の主な事業について  
別添資料（2）のとおり

### 3 今後の予定

#### (1) Ashiya Education Day 3Days（案）

- ・ Day1（in summer）「地域とともにこれからの教育について語る」
- ・ Day2（in autumn）「教師の探究」
- ・ Day3（in winter）「子どもの探究」

#### (2) PEACE プロジェクト研修（仮称）（案）

- ・ テーマ案「いじめ予防・ちがいを認め合うとは？—アートの視点から—」
- ・ テーマ案「ワークショップを通じた子どもたちの対話力の育成をめざして」
- ・ テーマ案「デジタル地球儀『さわれる地球』から探究的な学びを共に考える」
- ・ テーマ案「社会の変化とこれからの学校教育～主体性と当事者意識～」
- ・ テーマ案「子どもの自律を支える学校経営～生徒指導の手法・保護者対応～」

令和6年2月

Ashiya

PEACE

プロジェクト

第3期芦屋市教育振興基本計画（R3～R7）

—めざす教育の姿—

“信頼される学校園と成熟した家庭・地域で育む豊かな人間力”

芦屋の教育指針（令和5年度）

—めざす子どもの姿—

“夢と志をもって自らの未来を切り拓く子どもの姿”

芦屋市教育委員会

## P・E・A・C・E プロジェクトって？

約 150 年前から続く「みんなで同じことを同じペースで一律に」といった教育が段々と難しくなってくる中、学校も多様な個性、背景、願いをもった子どもたちが学び合う場となってきました。一人ひとりの個性が認められ、響き合い、共に新たな価値を創造する教育への転換が求められています。

何よりどの子にとっても、学校が**安心**して過ごせる場所でありたいと考えています。

個々の“今の自分”というものをそのまま認めていきたいと考えています。

「あれもしたい！こうしてみたい！もっと知りたい！」等々……。子どもたちの内にある四つの本能的欲求（「知りたい欲求」「作りたい欲求」「コミュニケーションしたい欲求」「表現したい欲求」）を大事にしながら、「**対話**」を通した**最適な支援**を心がけていきます。

**P・E・A・C・E** プロジェクトは、「未来」に生きる子どもたちにとって、それぞれの well-being をめざすものでもあります。

### P…Place（居場所）

どの子にも安心できる居場所を共に考えていきます。どこなら、どういう学び方なら気持ちが落ち着いて学べるか、時として子どもたちとも相談しながら決めていきます。

### E…Explore（探究）

学びの主体は子どもたち。学びへの欲求を大事に、身の回りの社会や自然に対する疑問や自ら立てた課題を自ら追究していく過程を大事にします。

### A…Assist individually optimized learning（個別最適な支援）

- 子どもたち個々の特性に応じる。

集団が苦手、今は落ち着かない、色々な音が気になる……。どういう場所、どういう学習の仕方なら少し安心して学ぶことができるか、時として子どもたちと相談しながら決めていくこともあります。

- 個々のペース・学び方に応じる。

自ら立てた問いや自ら考えた目標、計画、進め方（仲間や教師の力も借りることも含む）に委ねることもあります。

### C…Collaboration（協働）

一人では越えられない課題、壁にぶち当たることもあります。そんな時は、仲間や教師の力を借りながら学ぶ、つながりながら学ぶことも大事にします。

### E…Experience（体験・経験）

ChatGPTをはじめ AI 機能の進化により、調べ学習など一見便利なところもありますが、「考えない」ことが習慣化される懸念もあります。

子どもたちが夢中になって遊ぶ、学ぶ、失敗や成功を繰り返す体験を大事にしています。それが「また次、やってみよう」と挑戦心に火をつけ、複雑で予測困難な未来を切り拓く力の育成にもつながっていきます。

## これまで + ONE STEP!

成長を急かさず、**一歩ずつ**。

今、目の前の子どもたちに何が必要か。これまでの育ちはどうだったのか。  
これまではどんな体験をしてきたのか、あるいはできなかったのか。  
子どもたちにどんな選択肢を与え、自分で決め、自分で行動し、振り返ったことをどう生かしていくのか。

**安心して失敗**できるから、**次も挑戦**しようとなる。

その先には**自分で考えて、自分で行動できる力**が育つ。

## 子どもたちの声

学校や先生に対して望むこと。

(「第3期芦屋市教育基本計画(R3~R7)」作成時アンケートより)

※割合が多い順

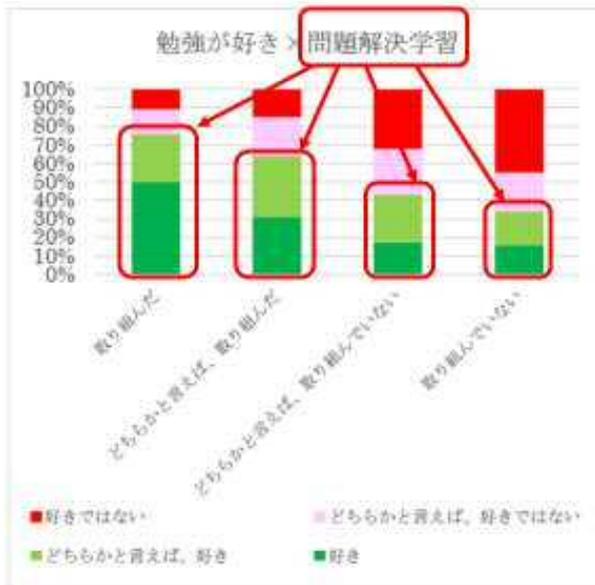
### 【小学生】

- ・体験学習などたくさんしてほしい。 51.5%
- ・興味のあることをたくさん教えてほしい。 34.9%
- ・いじめのない楽しい学校づくりをしてほしい。 29.7%
- ・グループの学習をたくさん取り入れてほしい。 23.7%

### 【中学生】

- ・わかりやすく教えてほしい。 40.1%
- ・興味のあることをたくさん教えてほしい。 39.9%
- ・体験学習などたくさんしてほしい。 38.7%
- ・自分の学力がどれくらいなのか教えてほしい。 25.3%

## 勉強が「好き」の実現に向けて



5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。どちらかという取り組みていた。

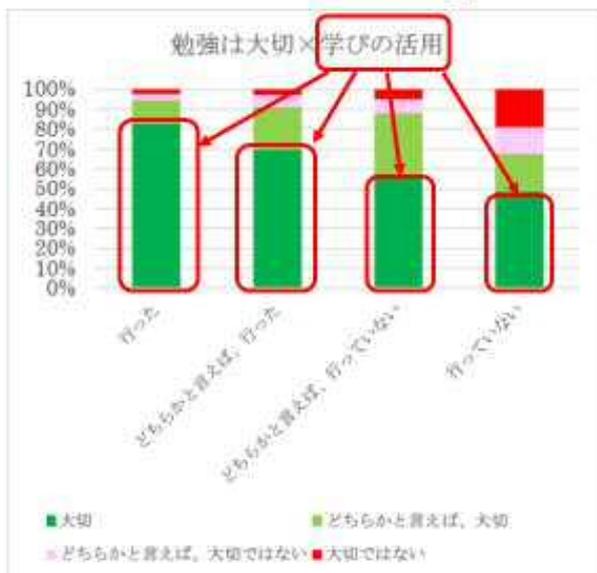
### 問題解決的な学習

- ① 課題を見つけ
- ② 解決方法を考え
- ③ 自ら取り組む

子ども  
主体の授業

↓  
この経験があればあるほど、勉強が好き。

## 勉強が「大切」と思えるように



5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。どちらかという行っていた。

### 単元末の活動

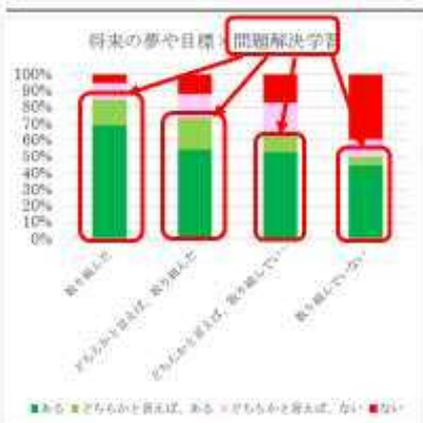
アウトプット

- ① 単元を通して学んだ
- ② ふりかえったor何か表現した

↓  
この経験があればあるほど、勉強は大切と思える。

## 自分自身に関すること

自分にはよいところがあると思う。 (どちらかといえば当てはまる。)		78.6	78.6	82.3	83.5	76.2	77.2	84.0	80.0
将来の夢や目標を持っている。 (どちらかというを持っている。)	A	80.0	77.6	74.1	81.5	60.9	64.5	67.7	66.3
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある。(ときどきある。)				86.2	91.0			67.5	86.8



5年生までに(中学校1、2年生までに)受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。どちらかという取り組んでいた。

### 問題解決的な学習

- ①課題を見つけ
- ②解決方法を考え
- ③自ら取り組む

**子ども  
主体の授業**

↓  
この経験があればあるほど、将来の夢や目標がもてる。

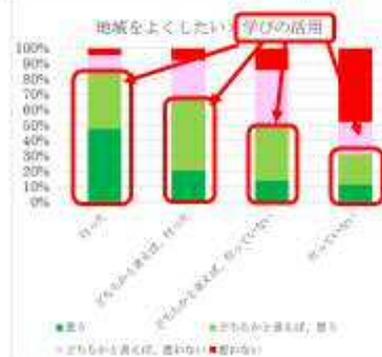
Attitudes

Values

## 他者とののかかわりに関すること

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(どちらかというと思う。)		96.3	95.2	94.6	96.9	95.8	94.6	95.3	95.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。(どちらかというと思う。)	B			67.2	76.6			59.9	63.9
自分と違う意見について考えるのは楽しい。(どちらかという楽しい。)		70.5	71.5	67.4	76.5	77.8	72.5	79.7	77.6
人の役に立つ人間になりたいと思う。(どちらかというと思う。)		94.1	93.0	94.1	95.9	95.2	95.2	94.6	94.6
友達関係に満足している。(どちらかといえば当てはまる。)				88.1	90.3			91.1	88.7

5年生までに(中学校1、2年生までに)受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。どちらかという行っていた。



### 単元末の活動

**アウトプット**

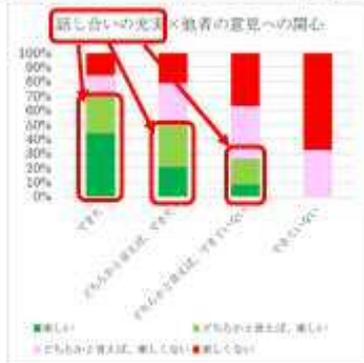
- ①単元を通して学んだ
- ②ふりかえったor何か表現した

↓  
**地域や社会をよくしたい**

## 他者とのかわりに関すること

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(どちらかと思う。)	96.3	95.2	94.6	96.9	95.8	94.6	95.3	95.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。(どちらかと思う。)			67.2	76.6			59.9	63.9
自分と違う意見について考えるのは楽しい。(どちらかという楽しい。)	70.5	71.6	67.4	76.5	77.8	72.5	79.7	77.6
人の役に立つ人間になりたいと思う。(どちらかと思う。)	94.1	93.6	94.1	95.9	95.2	95.2	94.6	94.6
友達関係に満足している。(どちらかといえば満足はまる。)			68.1	90.3			91.1	88.7

学校の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。どちらかというできている。



### グループ協議

授業時間の話し合いが充実

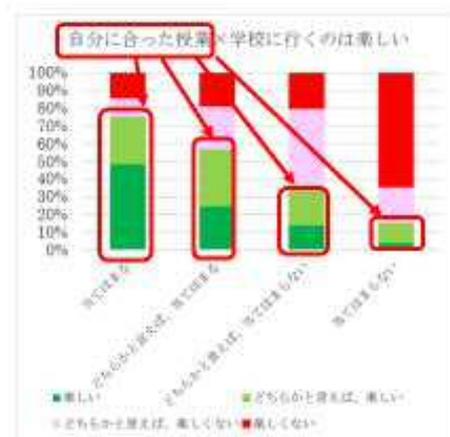
- ①自分の考えを出す
- ②自分の考えが広がる・深まる
- ③友達の考えが自分の学びに生きる

Attitudes

Values

## 学校や先生とのかわりに関すること

学校に行くのは楽しいと思う。(どちらかと思う。)	80.9	83.1	80.6	85.3	78.8	83.3	82.0	81.8
--------------------------	------	------	------	------	------	------	------	------



5年生までに(中学校1・2年生までに)受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。どちらかというとなっていた。

芦屋市	73.8	68.0
全国	82.9	74.9

一人ひとりのニーズ

### 個別最適な支援

- ①教え方
- ②教材・内容
- ③学習時間

## 対話について

これまで、多くの学校や自治体とご一緒してきた中で、私の中にはいま、一つの大きな確信があります。「ああ、これは“よい学校”だ」と確信を持って言える学校には、例外なく対話の文化や仕組みがあるのです。

先生方は、対話を通して、学校教育の最上位の目的や、本質的な深い子ども観・授業観を共有している。保護者も、その対話に加わり、思いを共有している。子どもたちもまた、自分たちの学校や、そこでの学び・活動などを、つねに仲間や先生たちとの対話を通して、自らつくり合っている。

民主主義社会とは、「対話を通じた合意形成」によって、私たちが共に作り合う社会です。そして学校は、この民主主義の一番大事な土台です。

そんな学校教育の本質を、先生、子どもたち、保護者、地域の人たち、みんなであらためて共有し、よりよい学校を共につくっていったら。そう、心から願っています。



哲学者・教育学者  
熊本大学教育学部准教授  
苫野 一徳  
《芦屋市教育アドバイザー》

## これから求められる学力について



東京大学教授  
慶応義塾大学特任教授  
鈴木 寛  
《芦屋市・芦屋市教育委員会連携協定  
：東京大学公共政策大学院》

20世紀においては、大量生産、大量流通、大量消費社会を支える人材となるべく、作業マニュアルを覚えて、それを正確に高速に再現し、マニュアル通りかどうかをチェックし、修正する能力が、実業界から強く求められていました。

しかし、こうした能力は、デジタル技術の進展に伴い、ロボットや人工知能にとって代わられるようになり、また、国連事務総長も Beyond GDP（GDPを超えて）の重要性を強調するようになっていなかで、教育の目的は「個人と社会のウェルビーイングの向上・改善」に変わってきています。真の幸福（ウェルビーイング）とは何かを再定義し、それを仲間と共に熟議し創造する力、責任をとる力、矛盾や困難に向き合う力を育むため、生徒の知識、技能もさることながら生徒の能動性・主体性（エージェンシー）を磨く、アクティブ・ラーニング（主体的で対話的で深い学び）がより重要になっています。そうした学力を身に着けるため、仲間との協働学習や探究学習や STEAM（科学・技術・工学・アート・数学）教育、実社会での PBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）などがこれからの学びの中心となっています。

## 探究

自ら問いを立て、学んだことが実生活や社会とつながっている、そんな実感がもてるような学習となるよう、教師も探究していきたいと考えています。

**教師のしかけ**  
教科を横断するテーマ  
社会的な課題を追求するテーマ  
みんなが夢中になれるテーマ

わたしたちは、一人ひとりがみんな違う。  
違いから学び、違いを受け止めて成長する。  
そして、一人ひとりが違った成長をする。  
だから・・・。

### 探究学習

みんなと目指す「テーマ」は同じでも、自分なりの「役割」「考え」「学習課題」で参加します。

- ・見通しを立てるのは得意だけど、実際にみんなを引っ張っていくタイプではないんだ・・・
- ・この分野の研究ならまかせてよ。しっかり調べてくるね。
- ・言葉で伝えるのは苦手だけど、図や表に表すのは得意だよ。

**自由進度学習**  
みんなと目指す「ゴール」は同じでも、「学び方」は自分で決めるよ。

- ・どの学習に何時間使おうか・・・
- ・どうやって学習しようか。先生に教えてもらおうか。友達と一緒に取り組もうか。ドリルで何回も練習しようか。

↓

自分の良さが生かされてよかった。  
友達の良さを知ることができてよかった。  
みんなで一つのことを創り上げることができた。

**教師はサポートに徹する**  
-集団・グループ・個人など様々な学習形態の整備  
-ICT機器・図書等の準備整備  
-その子に合わせた課題設定の支援



## 体験

夢中になって学ぶ、夢中になって遊ぶ、時として失敗をするかもしれませんが、そこを乗り越えていく力のみなもとは、何かに夢中になること、それが人に認められ、受け入れられることと考え、将来に渡って「学びの基盤」ともなる幼児期からの体験の積み重ねを引き続き大事にしていきます。

### 幼稚園教育の視点を広げる

- 学びや育ちの可視化

### 幼保小中連携・就学前施設間の連携

- 非認知能力の育成
- 幼保小中がつながる(連携) (←まずは子ども同士の交流・職員同士の交流)
- 「学びの芽生え」から「自覚的な学びへ」(接続)

## 居場所

### のびのび学級

一時移転先(旧:新浜保育所 令和6年2月末まで)では、従来に比べ活動スペースが増えました。新しい部屋の名前を、来室する子ども達で相談し、「わくわくルーム」と名づけました。

のびのび学級では、自分で学習計画を立て、自分のペースで学習を進めることを大切にしています。さらにこの「わくわくルーム」では仲間と考えを交流し、力を合わせて課題に取り組む活動も進めています。



一時移転先(旧:新浜保育所)でも子ども達の力で、学級が彩っていきます。



様々な体験学習も実施しています。  
(猪名川町にて自然体験学習)

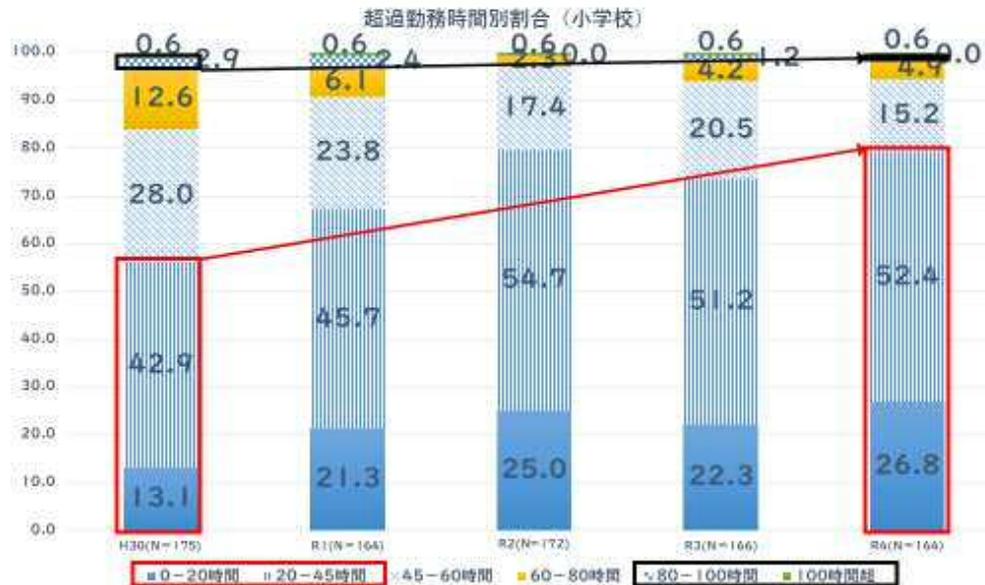
### 校内の居場所

自分のクラスに入りにくいこともあると思います。教室以外の場所で、「のびのび学級」のような形で進められるようにしていきます。

**働き方**

※教員の勤務時間 8:15~16:45 です。

教員の超過勤務の縮減にも引き続き努めていきます。



**学校業務サポーターのさらなる活用**

各校に配置されている学校業務サポーターの業務として、文部科学省通知(令和5年9月8日)に挙げられている「学校徴収金の徴収・管理」「授業準備(補助的業務)」を中心に教員の負担軽減、業務整理を進めていきます。

## ダイバシティ

互いに認め合うこと（自分のこと・相手のこと）を大事にしていきます。

### ✍️ 特別支援コーディネーター研修

個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据え、同じ場で共に学ぶことを追求します。多様な教育的ニーズに的確に応え、柔軟な支援ができるよう、専門性の向上、支援内容の充実を目指します。

#### ○特別支援教育研修会の充実（特別支援教育センター主催）

※学校現場からの声を受けて、テーマを決めます。

- ・子どもの見方と指導（言語・数量等に関して）
- ・子どもの見方と指導（情緒・社会性に関して）
- ・保護者対応と発達障害

#### ○コーディネーター研修の充実

- ・校園内の関係者や関係機関との連絡調整
- ・特別支援センターや専門家チームとの連携
- ・校内支援委員会の充実

## 協働・主体性

より主体性、協働性が求められる世の中になっています。

子どもたちの声を聴く、子どもたちを信じて、任せて、やらせてみることも大事にします。仲間とつながり合い、安心を感じながら、未来を切り拓いていく力をつけていってほしいと思います。

### ✍️ ちょっと聞かせて。

### 「ちょっと聞かせて。」

高島市長とフリートーク 

<p>&lt;内目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒代表が、フリートークで市長と対談。</li><li>・市関係者、教員は会場に入りません。</li><li>・テーマは決めません。</li></ul>	<p>&lt;効果&gt;</p> <p>市長との「対談」をきっかけに、まだまだ自分たちで考えられること、やり遂げることに繋がるきっかけをつかむ。</p> <p>&lt;期待したいこと&gt;</p> <p>⇒取組ことを強要はしません。</p> <p>ただ、相談してみたい、協力取り組んでみたいことがあるなら、市長にたずねてみてほしい。</p> <p>⇒成功とか失敗とかではなく、途中経過でも<b>市長にブレゼン</b>してみるものいいかもしれません。</p> <p>市長からのアドバイスや異なる視点をきっかけにフラッシュアップ！</p> <p>⇒自分の学校だけでなく、3中学にまたがる取組に発展できたら素晴らしい！</p> <p>⇒あしや部とのコラボもできるかも？</p>
<p>&lt;日程&gt; 特開 12:00~14:00</p> <p>2023.7.4 (火) 山手中学校 2023.7.5 (水) 朝興中学校 2023.7.19 (水) 精進中学校</p>	
<p>&lt;当日スケジュール例&gt;</p> <p>12:00 市長到着 学校視察 12:45~13:05 3年生のクラスで一緒に給食 13:05~13:25 生徒代表とフリートーク</p>	

### ✍️ 校則の見直し

学校ごとに取組みは進められています。自分たちで、よりよい学校生活にしていくために話し合い、決めていくことも大事にしています。

## Q & A

### Q1：「ちょうどの学び」とはどのようなものですか？

これまでは「個に応じた指導」として取り組みを積み上げてきました。この度は、文部科学省が提唱する公正な「個別最適な学び」を、子どもたちとも共有しやすいよう、その同義語として設定しました。

学習面で言えば、個々の到達度レベルよりちょっと難しい課題であったり、特性の面で言えば、視覚や聴覚に過敏なところに気持ちが落ち着ける環境を選ぶことができたり、心理面で言えば、その時に状況等に合わせた言葉かけや支援をすることにより、子どもたちにとって自分に合った学び方やペースが尊重されることにつながっていきます。

また、そこで教師が、子どもたち個々を孤立させるのではなく、限りなく個に寄り添った伴走支援を心がけることにより、子どもたちは、その“ちょうど”の質を仲間や先生の力を借りながら、自らも、もっとぐっと深めていけるものだと考えています。

### Q2：子どもに「任せる」ということは、先生は何もしないということですか？

これまでは、一律に同じことを、同じ方法で、同じペースで「指導する」ことが教師の役割でした。

これからは、子ども一人ひとりの理解度や学び方に応じて「支援する」役割へと変わっていきます。

例えば、算数や数学が得意な子どもがより発展的な課題にチャレンジできるように学習環境の整備をし、その子のチャレンジを応援します。つまずきや、困り感を覚える子どもには寄り添い、理解できるようにサポートします。

教師は子どもたちの学習の「指導者」というより、学習の「支援者」への転換を目指します。

### Q3：「学力」の言葉がありませんが、子どもたちの学力向上についてはどう考えているのでしょうか？

「学力」は、「学習への主体性・意欲」、「思考・判断・表現力」、「知識・技能」の総体です。

本市では毎年の全国学力・学習状況調査の結果から、「思考・判断・表現力」、「知識・技能」においては、全国よりも高い数値であることがわかっています。

一方、同調査の質問紙の結果から、「学習への主体性・意欲」については、年々低下がみられ、なおかつ全国よりも低い数値であることがわかりました。

つまり、本市の子どもたちの学力と質問紙から読み取れる実態として、「教科は高成績でありながら、勉強はあまり好きではない」と、やや偏りが見られます。

今後も本市では引き続き、「学力」の中でも、「学習への主体性・意欲」に着目した、「子ども主体の学び方」に力をいれていく必要があると考えています。

# Ashiya PEACE プロジェクト 「R6年度実施予定の主な事業について」

## 別添資料（2）

ホーム

くらし

防災・安全

健康・福祉・子育て

教育・文化・スポーツ

産業・まちづくり

市政



教育のまち  
芦屋

Ashiya P.E.A.C.E.  
プロジェクト  
~ONESTEP!  
夢中になって学ぶ楽しさを~

Google カスタム検索

カテゴリを選択

検索

新着情報

STOP

どの子にとっても、安心して過ごせる居場所を

## 1. 前提

1. Philosophy ベースとした考え方
2. Ashiya PEACEプロジェクト始動

## 2. 概要

1. 中期ビジョン
2. 関係図

## 3. Ashiya PEACEプロジェクト R6実施予定

1. テーマ①：心の居場所
  1. **(新)** PEACEサポーターの配置
  2. **(増)** 「のびのび学級」の充実
  3. **(増)** いじめ防止対策
2. テーマ②：探究・体験・多様性
  1. **(改新)** 探究的な学びの推進
  2. **(増)** 国際理解教育の推進
3. テーマ③：主体性・協同性
  1. **(新)** 「ちょっと聞かせて。」
  2. **(新)** ちょこっとリニューアル！
4. テーマ④：働き方
  1. **(増)** 教員の働き方改革
  2. **(増)** 中学部活動推進事業
  3. **(増)** 「教師力」向上研修

# 1.1 Philosophy ベースとした考え方

## ○教育を「改革」する？

令和5年8月1日付で学校教育改革推進室が発足

- ・何を改革するの？

改革＝トップダウン

改善＝ボトムアップ

グランドデザイン

教師・子どもの声

- ・そもそも論として、「何のために」？

対話（指導主事）

まず、誰も1人にしない。どの子にとっても安心できる場所を！

- ・何を变えるの？

今、何が問題か？・・・不登校、いじめ、精神的幸福度

反省的実践家としての教師

どう具現化するのか？ 今、何が求められているのか？

学校としてのメタ機能を！

対話（校内）

管理職のサーバントリーダーシップ

ミドルリーダーの育成

チーム学校→チーミング学校へ

- ・学びの構造転換を

どんな学びが求められているのか？

対話（学校⇔市教委）

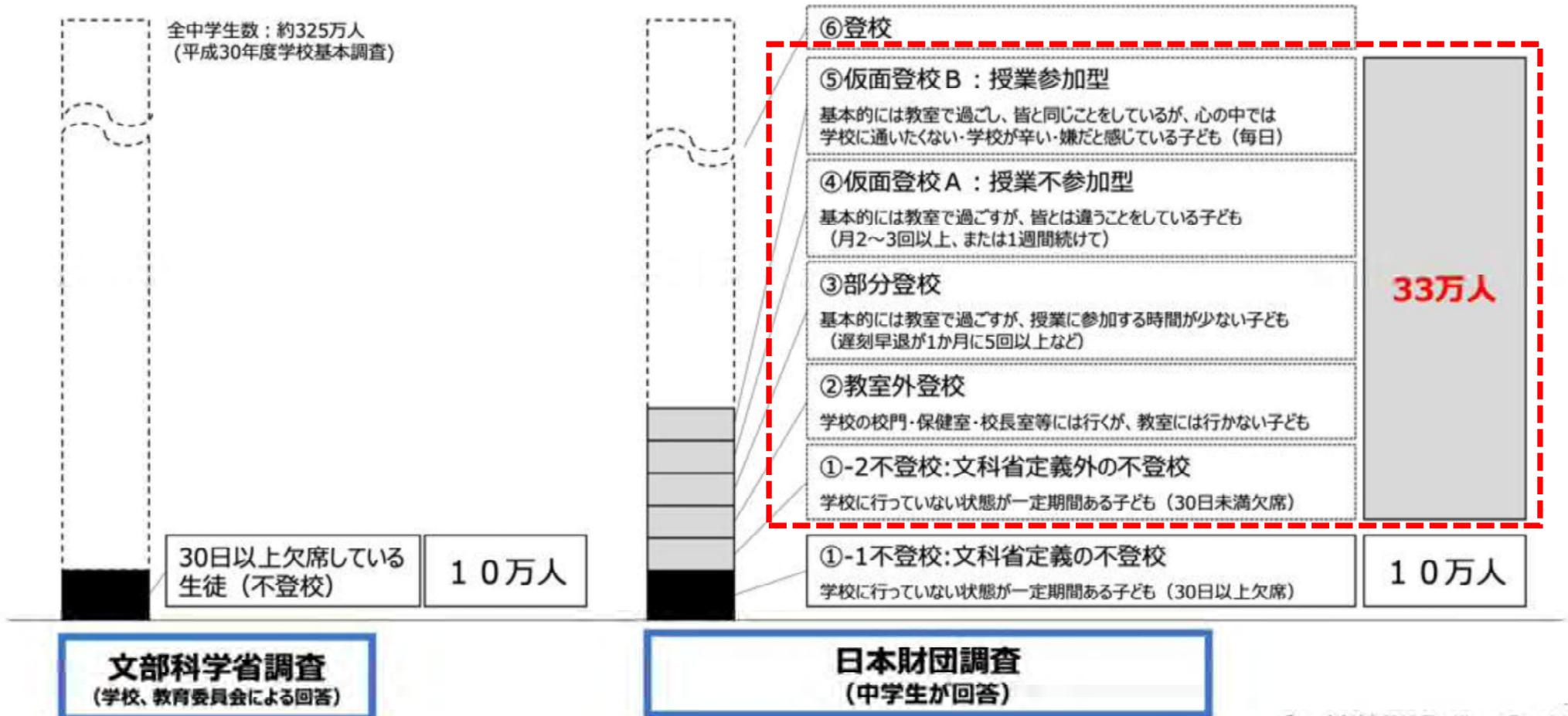
伴走者としての教師＝市教委

# 子どもたちを取り巻く課題

## 日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査

文部科学省調査（児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査）との違いイメージ

- 学校ではなく、子どもから実態を調査。
- 不登校傾向にある中学生（年間欠席数は30日未満）は約33万人と推計。



## 学校生活をめぐる子どもの特徴（タイプ）6群

①-1	不登校	学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】年間30日以上（文科省定義内）学校に行っていない	30日以上 欠席	33万人
①-2		学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】1週間以上連続（文科省定義外）など一定程度学校に行っていない	1週間以上 連続欠席	
②	教室外登校	学校の校門・保健室・校長室等には行くが、教室には行かない 【主な特徴】保健室登校、図書室登校、校長室登校、校門登校など 頻度：「月2～3回以上、もしくは1週間続けて」	学校内で 行動表出	
③	部分登校	基本的には教室で過ごすが、授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】給食登校 遅刻や早退が多い。頻度：「1か月に5日以上」 1日に何度か、一時的に保健室などで過ごす		
④	仮面登校 A 授業不参加型	基本的には教室で過ごすが、皆とは違うことをしがちであり、 授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】 <u>授業がつまらない、または授業内容とは別に追求したい・学びたいことがある</u> 頻度：「月2～3回以上、または1週間続けて」		
⑤	仮面登校 B 授業参加型	基本的には教室で過ごし、皆と同じことをしているが、 <u>心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている</u> 【主な特徴】行動表出なし。頻度：「毎日」	学校内で 行動非表出	
⑥	登校	学校に馴染んでいる		

## 【現中学生に聞いた】「小学校時代」タイプ別ボリューム

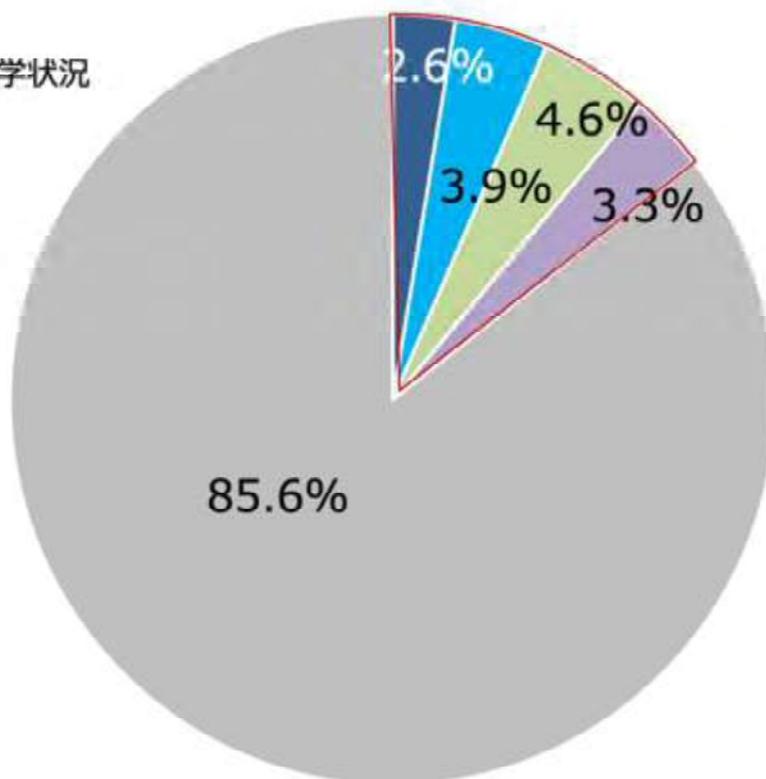
- ・小学校時代に1週間以上連続で休んだことがあると回答した現中学生は3.9%で、中学校時代と比較して2.1%多かった。
- ・②～④群（教室外登校、部分登校、仮面登校A）の不登校傾向にあったと思われる現中学生は4.6%で中学校時代と比較して0.6%多かった。
- ・小学校時代に不登校または不登校傾向にあったと思われる現中学生は合計で14.4%だった。



## 【現中学生に聞いた】「小学校時代」タイプ別ボリューム

- ・ 小学校時代に不登校または不登校傾向にあったと思われる現中学生は14.4%だった。
- ・ 小学校時代に1週間以上休んだことがあると回答した現中学生は3.9%で、中学校時代と比較して2.1%多かった。
- ・ ②～④群（教室外登校、部分登校、仮面登校A）の不登校傾向にあったと思われる現中学生は4.6%で中学校時代と比較して0.6%多かった。

小学校時代の通学状況  
(n=6,450)



「不登校」または「不登校傾向」にあった子ども：  
14.4%

## 【現中学生に聞いた】中学校に行きたくない理由

・「疲れる」「朝、起きられない」などの身体的症状以外の要因では、全ての群で学業に関する理由がみられた。

※26項目中

<中学校に行きたくない理由TOP10>

赤字は「①～⑤非該当」と比べて20pt以上高い項目

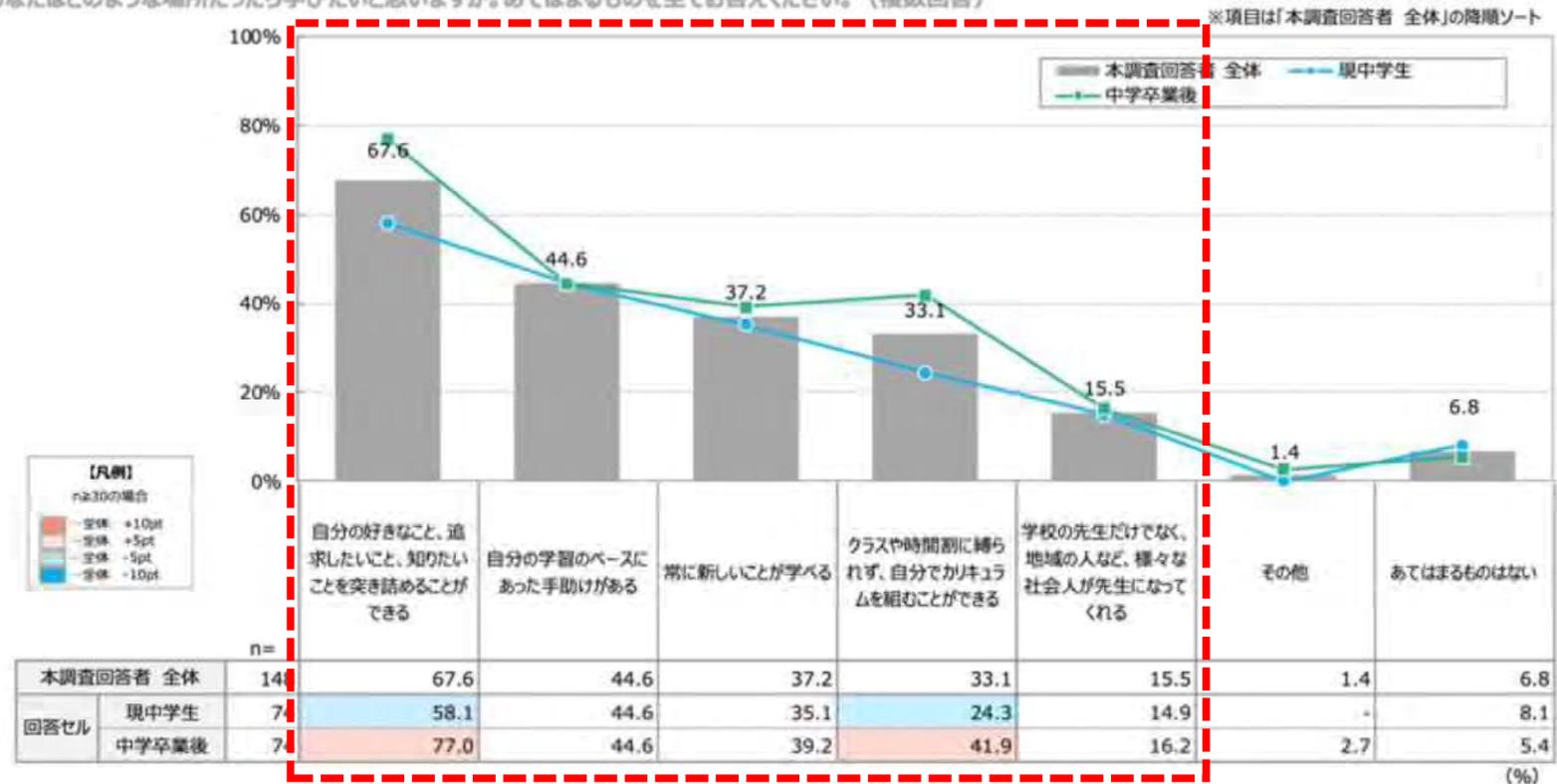
	⑥_①～⑤非該当	①-1_1年間に合計30日以上、学校を休んだことがある/休んでいる	①-2_1週間以上連続で、学校を休んだことがある/休んでいる	②～④いずれが選択	⑤基本的には教室で過ごし皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている
1位	疲れる (25.7)	<b>朝、起きられない (59.5)</b>	疲れる (38.2)	疲れる (44.0)	<b>疲れる (48.7)</b>
2位	朝、起きられない (19.2)	<b>疲れる (58.2)</b>	朝、起きられない (32.6)	朝、起きられない (35.6)	朝、起きられない (32.2)
3位	テストを受けたくない (16.0)	<b>学校に行こうとすると、体調が悪くなる (52.9)</b>	自分でもよくわからない (31.0)	<b>授業がよくわからない・ついていけない (33.3)</b>	<b>学校に行く意味がわからない (31.9)</b>
4位	自分でもよくわからない (15.0)	<b>授業がよくわからない・ついていけない (49.9)</b>	<b>友達とうまいかない (30.1)</b>	友達とうまいかない (28.5)	<b>学校は居心地が悪い (28.4)</b>
5位	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (13.0)	<b>学校は居心地が悪い (46.1)</b>	授業がよくわからない・ついていけない (29.2)	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (27.1)	<b>テストを受けたくない (28.2)</b>
6位	部活がハード (11.8)	<b>友達とうまいかない (46.1)</b>	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (28.9)	<b>テストを受けたくない (27.0)</b>	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (27.8)
7位	<b>授業がよくわからない・ついていけない (11.6)</b>	自分でもよくわからない (44.0)	<b>学校に行こうとすると、体調が悪くなる (28.1)</b>	先生とうまいかない/頼れない (26.1)	<b>授業がよくわからない・ついていけない (27.3)</b>
8位	友達とうまいかない (10.1)	<b>学校に行く意味がわからない (42.9)</b>	<b>学校は居心地が悪い (24.5)</b>	<b>学校は居心地が悪い (25.9)</b>	先生とうまいかない/頼れない (26.1)
9位	校則など学校の決まりが嫌だ (7.1)	<b>先生とうまいかない/頼れない (38.0)</b>	先生とうまいかない/頼れない (23.4)	校則など学校の決まりが嫌だ (22.5)	小学校の時と比べて、つまらない (25.0)
10位	小学校の時と比べて、つまらない (6.7)	<b>小学校の時と比べて、良い成績が取れない (33.9)</b>	<b>テストを受けたくない (23.2)</b>	小学校の時と比べて、つまらない (21.8)	友達とうまいかない (24.1)

(%)

## 【不登校または不登校傾向にある現中学生と卒業生(中学卒業後～22歳)に聞いた】 学びたいと思える場所

- ・ 「自分の好きなことを突き詰めることができる」環境が、学びたいと思える場所としてトップ。
- ・ 回答セルごとに見ると、「自分の好きなこと、追求したいこと、知りたいことを突き詰めることができる」「クラスや時間割に縛られず、自分でカリキュラムを組みことができる」において、現中学生より卒業生（中学卒業後～22歳）のほうがスコアが高い。

Q2.あなたはどのような場所だったら学びたいと思いますか。あてはまるものを全てお答えください。（複数回答）



# 1. 社会構造と子供たちを取り巻く環境の変化

## (3) 認識すべき教室の中にある多様性・子供目線の重要性 (小学校のイメージ:一例)

すべての子供たちの可能性を最大限引き出す教育が求められている中、教室には、発達障害や特異な才能、家で日本語を話す頻度が少ない子供、家庭の文化資本の差による学力差等、学級には様々な特性を持つ子供が存在し、これらの特性が複合しているケースもある。同学年による同年齢の集団は、同調圧力が働きやすく、学校に馴染めず苦しむ子供も一定数存在し、不登校・不登校傾向の子供は年々増加の一途をたどっている。さらには、一斉授業スタイルでは、一定の学力層に焦点を当てざるを得ず、結果として、いわゆる「浮きこぼれ」「落ちこぼれ」双方を救えていない現状。また、困難を抱えていても、一見困難に直面しているように見え、見過ごされてしまう場合がある。このように、子供たちが多様化する中で、教師一人による紙ベースの一斉授業スタイルは限界にきている。

### 発達障害の可能性のある子供 (学習面or行動面で著しい困難を示す)

発達障害※1  
2.7人  
(7.7%)

- ・ADHD(注意欠如多動性障害)  
いつもそわそわして、じっと座ってられない。いろいろなものに気が散り、授業に集中できない。
- ・LD(学習障害、読字障害)  
文字が流暢に読めなかったり、板書に時間がかかったりして、授業の進度に合わせられない。
- ・ASD(自閉症スペクトラム)  
学習活動の見通しが持てないと不安になる。暗黙のルールがわからず、突然発言してしまう。

### 特異な才能のある子供

特異な才能のある子供※2  
0.8人  
(2.3%)

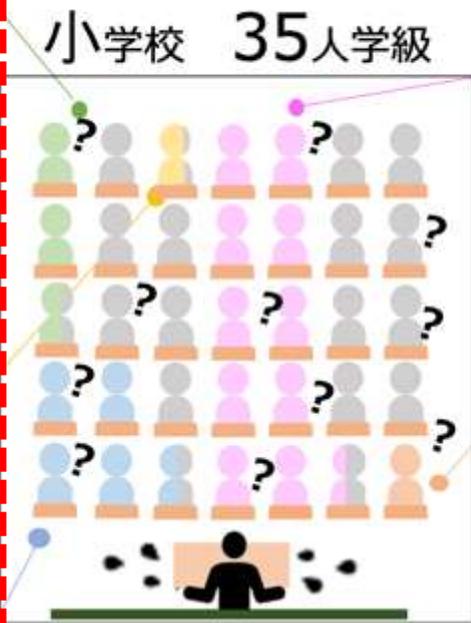
授業が暇で苦痛。価値観や感じ方の共感も得られなくて孤独。発言すると授業の雰囲気壊してしまう。

小3から中学数学、小5で数ⅡBをやっていた。4歳のころ進化論を理解して、8歳で量子力学や相対性理論を理解していた。

### 不登校・不登校傾向の子供

不登校※3  
0.4人  
(1.0%)

不登校傾向※4  
4.1人  
(11.8%)



※例示している特性が複合しているケースも多い。  
※特性として示している子供についても、状況にはグラデーションがあり、様々であること。  
※このほかにも、学校には、病気療養で学校に通えない子供やいわゆるヤングケアラー等、多様な背景や困難を抱える子供が存在している

家にある本が少ない子供※5  
10.4人  
(29.8%)

### 家庭の文化資本の違い

家にある本の冊数が少なく  
学力の低い傾向が見られる子供

※家にある本の冊数と正答率の間には相関  
家に本が10冊又は25冊と答えた割合



家で日本語をあまり話さない子供※5  
1.0人  
(2.9%)

### 家で日本語を話す頻度の違い

家で日本語を「いつも話している」子供と「全く話さない」子供の間には、正答率に差が見られる  
※家で日本語を「全く話さない」「ときどき話す」と答えた割合

### 子供たちの特性や関心・意欲は様々

話すこと・聞くこと  
書くこと・読むこと  
が得意な子供

文字情報・  
音映像などの情報の扱  
いが得意な子供

音やダンスで  
表現することが  
得意な子供

特定の分野に極めて  
高い集中力を  
示す子供

興味や関心が  
拡散しやすい子供

特定の分野などに  
関心・意欲や知的好奇心  
が旺盛な子供